

薬剤部

1. 施設認定：日本医療薬学会認定研修施設、がん専門薬剤師研修施設

2. 各薬剤師の資格

日本医療薬学会認定指導薬剤師：國正 淳一

日本病院薬剤師会癌化学療法認定薬剤師：三宅 麻文、安倍 さつき

日本病院薬剤師会近畿ブロック癌化学療法専門薬剤師：安倍 さつき、水田 純平

日本糖尿病療養指導士：船江(富島) 智子

3. 院外活動

京都大学医学部臨床教授：國正 淳一

4. 処方箋枚数

外来（院内・内外用） 年間 19688 枚（1日平均 71 枚）

外来（院外・内外用） 年間 247663 枚（1日平均 897 枚）

院外処方せん発行率 92.7%

外来（注射） 年間 38907 枚（1日平均 141 枚）

入院（内外用） 年間 156623 枚（1日平均 429 枚）

入院（注射） 年間 223449 枚（1日平均 612 枚）

5. 無菌調製件数

中心静脈栄養 年間 1424 件（月平均 119 件）

抗癌剤（外来） 年間 5762 件（月平均 480 件）

抗癌剤（入院） 年間 7288 件（月平均 607 件）

化学療法レジメン数 108

6. 薬剤管理指導業務

薬剤管理指導算定件数（平成 22 年 4 月～23 年 3 月）

	22/4	5	6	7	8	9	10	11	12	23/1	2	3	総計
件数	1825	1657	1879	1829	1939	1681	1707	1743	1587	1739	1647	1739	20972

7. 医薬品情報業務

薬品情報の収集・管理及び医療スタッフへの情報伝達・提供

1) 薬事委員会の事務手続き（資料作成・打ち合わせ等、毎月）

2) 用事購入薬品の手続き・管理等

3) 添付文書情報の収集・管理・伝達（特に重大な副作用に対しては、直接医師宛にメールを送るなど、緊急に対応している）

厚生省への副作用情報の報告（医薬品等安全性情報協力施設）

4) 医薬品集の作成（2年毎に改訂）・追補版の作成（毎月）

5) 問い合わせに対する対応（約 10 件／日）

錠剤鑑別、採用の有無・規格、長期投与、注射薬の配合変化等

6) 薬剤部だよりの発行（毎月）

薬事委員会報告、副作用報告、その他資料関係

7) 病棟・救急室などの常備薬の申請・点検（2～3 回／年）

書類等の管理

8) 各種マニュアルの管理（調剤・院外調剤・麻薬等）

9) オーダリングに伴う業務

- (1) 採用新薬・院外専用薬品・用事購入薬品の名称・単位・禁忌等の登録
- (2) 採用削除品の消去
- (3) 採用・院外・用事購入薬品の効能効果・用法用量・副作用・禁忌等の変更登録

8. 薬物血中濃度解析業務

MRSAの点滴治療薬のバンコマイシン等は適正濃度と副作用発現危険濃度の差は狭く投与開始時は dosing chart に沿って投与量、投与間隔を決定し投与するが、投与後適正か否かの評価に血中濃度 (TDM) 測定は不可欠である。そしてTDMの結果から投与量を正確に調整するには専門的な解析を要する。適正治療行わなければ院内感染対策の主要な部分を占めるMRSA感染に対して確実な治療効果が得られず、在院日数の延長や医療費の浪費につながり医療経済学上重大な問題となり、また、投与患者の副作用を回避する点においても不十分である。(バンコマイシン適正使用マニュアルより)

過去7年間血中濃度解析件数 (平成16~22年度)

H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
412	426	391	380	491	594	610

9. 治験事務局業務

医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令 (平成9年3月27日、厚生省令第28号) ならびに関連する通知等に基づいて、治験の実施に必要な手続きと運営に関する手順を定めた。その手順に伴い、平成10年4月より当院治験事務局が設置された。治験事務局長に薬剤部長、事務局員に薬剤師が兼務することとなった。平成15年7月に治験業務の円滑化を目的として治験施設支援機関 (Site Management Organization 略名 SMO) と契約した。現在、厚生労働省令第24号および関連する薬食審査発の通知等に伴い、手順書を変更し、治験事務局業務を行っている。

平成22年度の新規受入れ件数は次の通りである。

フェーズⅠ	0件
フェーズⅡ	7件
フェーズⅢ	12件
製造販売後臨床試験	0件
製造販売後調査	42件

研究業績

I) 学会発表

1. 玉田理恵、本庶祥子、池田弘毅、河崎祐貴子、國正淳一、越山裕行 インスリン自己注射時におけるメディケーションエラーについての検討 第53回日本糖尿病学会年次学術集会 2010.05.27-29 (岡山)
2. 宮本直治 患者参加型リスクマネジメントにむけて 日本予防医学リスクマネジメント学会関西地方会 2010.06.05 (神戸)
3. 國正淳一、阿賀千香子、伊東祐喜子、竹村薫、永井友梨、太田 (牧) 知子、綿本有希子、上松由里 持参薬管理センターの院内設置による経済効果とリスクマネジメント 第12回医療マネジメント学会学術総会 2010.06.11-12 (札幌)
4. 河原宏之、阿賀千香子、白根麻里子、猪子森明、國正淳一、野原隆 CKD患者における腎排泄型薬剤の適正使用に向けての取り組み 医療薬学フォーラム2010/第18回クリニカルファーマシーシンポジウム 2010.7.10-11 (広島)
5. 竹村薫、三宅麻文、水田純平、河原宏之、西岡千里、安田和佳奈、澤田京子、岡村昇、國正淳一 整形外科病棟におけるCKD患者の薬物治療 医療薬学フォーラム2010/第18回クリニカルファーマシーシンポジウム 2010.7.10-11 (広島)

6. Chikako Aga, Hiroyuki Kawahara, Mariko Shirane, Junichi Kunimasa, Moriaki Inoko, Ryuji Nohara Drug therapy for CKD patients at the Cardiovascular Center 第23回アジア薬剤師会連合学術大会(FAPA) 2010.11.05-11.08(台北)
7. Hiroyuki Kawahara, Wakana Yasuda, Junichi Kunimasa Management of brought medication for hospitalized patients by pharmacists 第23回アジア薬剤師会連合学術大会(FAPA) 2010.11.05-11.08(台北)
8. 永井友梨、竹村薫、阿賀千香子、安倍さつき、三宅麻文、河原宏之、國正淳一、安田和佳奈、西岡千里、岡村昇 入院時における腎機能低下患者の持参薬調査と処方介入 第20回日本医療薬学会年会 2010.11.13-14(千葉)
9. 三宅麻文、竹村薫、河原宏之、水田純平、國正淳一、安田和佳奈、西岡千里、岡村昇 当院における持参薬管理センターを介したリスク回避への取り組み 第20回日本医療薬学会年会 2010.11.13-14(千葉)
10. 富島公介、伊東祐喜子、三井克巳、稲野将二郎、吉永則良、丸山互、福永明子、平田大二、有馬靖佳、國正淳一 ペンタミジン点滴静注によって起こった高血糖が2ヵ月後に改善したAIDS患者の1例 第24回日本エイズ学会学術集会・総会 2010.11.24-26(東京)

II) 和雑誌執筆

1. 宮本直治、國正淳一 「月刊薬事」Vol.52 2010年6月
2. 國正淳一 「Pharmacy Today」Vol.23 No.2 2010年7月

III) 単行本出版

1. 國正淳一「服薬指導のためのくすりの効き方と作用 Part 4 新薬 06-09」(じほう) 2010年7月刊行

以上